

京都市立芸術大学音楽学部同窓会



真声会 会報 第70号

2020年5月10日



寂しげな桜

真声会会長 登 博美 (20期・トロンボーン)

今日は4月1日。春は新年度の新しいスタートの季節として、新学期が始まり、入園・入学式や入社式があったり、引っ越しや新生活の準備をしたり、気持ちがりセットされ心が騒ぐ時期であります。今年は暖冬の影響からか例年に比べて桜の開花も少し早いものの京都の桜はいつもと変わらず満開に咲き誇っています。しかし、例年なら大勢の花見客で賑わう桜の名所も人影は疎らで、誰もしが桜を愛でようという気にはなれないのであります。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって全世界で様々な混乱が生じています。経済や観光、教育、医療、日常の生活のみならず文化・スポーツ界なども多大な影響を受け、なにもかもが「フェードアウト」していくような気持ちになります。

私たちの周りの音楽界においても政府の文化・スポーツイベントなどの自粛要請によるコンサートや日常のリハの中止などその影響は枚挙に暇がありません。全国のオーケストラでも相次ぐ公演の中止や延期で、数千万円の損失を見込む楽団が続出しています。オケ公演の中止・延期による損害は8～10億円に上り、「存続の危機」「3カ月で破綻」といった悲痛な声があがっているそうです。

そのような厳しい状況においても、多くのファンや市民に感謝の気持ちを伝えようとする取り組みも出てきています。例えば、京都市交響楽団は定期演奏会をホールに観客を入れずに公演し、その動画はインターネットを通じて同時に無料配信されました。同様に、通常の公演は断念したものの、無観客上演を行い、それを動画配信サイトで無料生中継した滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールのオペラ《神々の黄昏》も大きな評判を呼びました。

今回のコロナ禍は、長期化する可能性もあるといえます。終息宣言がなされるまで、ずっと萎縮した状態が続けば、経済はどん底に落ち込み、文化の継続性も危うくなるでしょう。音楽界でも当分難しい時期は続くでしょうが、音楽家や関係するスタッフ、フリーランスみんなで乗り越えていってほしいと願うばかりであります。

さて、新型コロナウイルスへの不安から、ぎすぎすした空気が漂う中、これに追い打ちをかけるように旧京都造形芸術大学が4月1日から名称を京都芸術大学に変更したと発表しました。同時に「旧京都造形芸術大学」のホームページには「瓜生山学園 京都芸術大学」の名称が使われています。

真声会会報第69号においても、この「京都芸術大学」改称問題への対応について報告したところですが、京都芸術大学の名称を巡っては、京都市立芸術大学が混乱を招くとして瓜生山学園を相手に名称の使用差し止めを求めて、大阪地裁で係争しています。しかし造形大はこの訴訟判決がまだ出ていないにも関わらず、「京都芸術大学」

会長巻頭言.....	1	各支部活動報告.....	7
真声会賞報告・受賞者レポート.....	2	コンクール等受賞者.....	9
卒業式・入学式の報告.....	5	後援演奏会情報.....	10
京芸だより.....	6	真声会活動報告.....	12

の名称を公然と使用し始めました。看過すれば世間はあたかも判決が出たかのような認識になってしまうことも懸念されます。

私たち真声会はこれまで大学や美術学部「象の会」と歩調を合わせて、行動は騒ぎ立てることなく落ち着いて適切に対応するというスタンスを取り、現在まで表立った抗議活動等は控えてきました。しかし、結審が年度をまたぐようになり、係争中にも関わらず造形大が名称変更を強行したことから、これに対して強く抗議し、先頭に立って戦っている大学を応援するため、真声会、象の会両同窓会として『署名活動を含む抗議活動』『長期化が予想される裁判費用の支援カンパ』『京都芸大創立140周年記念広報への補助』の3点について、行動を起こすことといたしました。

特に署名活動につきましては、これまでも一部の会員から早期の行動をとる声もいただいておりますが、改めて造形大が一方的かつ公然と新名称を使用することに反対し、できるだけ多くの署名を集めることで、この問題への世間の関心を広げたいと考えています。

つきましては、このような趣旨をご理解いただき、会報とともに同封しています『反対署名運動』に何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で花見の自粛やイベントの中止など今年の桜はちょっぴり寂しげです。そしてあっという間に花吹雪となって散っていきます。しかし、すべての花が散ってしまっても、やがて葉を茂らせ実をつけて再び花を咲かせます。次の季節へと繋がっている命に私たちはいつも希望を繋いでいるのでしょうか。新型コロナウイルスは終息の気配が全く見えず、裁判も長期戦の様相を呈していますが、いずれも早期に収まって来年こそはゆっくりと桜を満喫したいものです。

第4回 真声会賞は 陶山咲希さん(管楽器専攻・ファゴット)が受賞されました

真声会副会長 樋上 由紀(19期・ピアノ)

令和元年度卒業に当たり、卒業生でファゴット専攻の陶山咲希さんが、第4回の真声会賞を受賞されました事をご報告いたします。表彰はコロナウィルスの感染拡大に伴って、卒業式に来賓の出席が出来なくなり、代わって真声会理事で、学内委員の山本毅教授から賞状並びに副賞10万円を授与していただきました。

真声会賞は卒業生の中から、実技のみならず音楽に関わる成績や一般教養の成績優秀者を真声会学内委員の先生方に選考していただきました。その結果、今年是指揮専攻、弦楽器専攻、管楽器専攻の三名が推薦され、それぞれから提出された任意のテーマによるレポートについて真声会理事会において慎重に選考いたしました。

選ばれた方々のレポートはどの方もしっかりと自分の考えを表現された力作で、大変優秀つけない文章となっていました。まさに今問題のコロナウィルス大流行と約100年前のスペイン風邪流行時とを比較され、その当時に作曲された名曲の中にこの時期を乗り越えるための意味を探られていたり、日本の恵まれない子供たちを勇気づけたり喜びを共感したいとの強い思いでこれからの活動を語られていたり、音楽の起源から歴史を紐解き人の心の中深くにある美意識を宇宙の摂理にまで広げ考えられた熱意の感じられるレポートで、選考の会でも票が割れ、難しい選考となりました。選出された陶山咲希さんのレポートは本会報にて掲載致していますので、是非ご一読ください。

今回もまた真声会賞の選考にあたりまして、ご協力頂きました京芸事務局教務課、並びにご推薦いただきました学内委員の諸先生方に心より厚く御礼を申し上げます。

受賞された陶山さんを始め卒業生の皆さまはこれからそれぞれの道を歩まれる事と思いますが、厳しく困難な事に会われても勇気と希望を友としてご活躍されて行かれます事を心よりお祈り申し上げます。

真声会賞受賞者よりメッセージ



この度はこのような大変栄誉ある賞をいただき、幸甚に存じます。この大学で過ごした 4 年間は、間違いなく私の人生の中でかけがえのない時間です。これまでに出会い支えてくださった皆さまに御礼申し上げますとともに、これからは今まで学び経験したすべてを糧とし、より多くの方に音楽と心を届けられるよう、また今度は私からこの御恩を返していけるよう、なお一層音楽を追求し精進して参ります。

真声会賞受賞者レポート

人と音楽

陶山 咲希 (65 期・ファゴット)

動物は生きるか死ぬかの世界で生きているが、人はそうではない。今までもそしてこれからも、答えのない様々な問いに立ち向かい、日々悩み、選択し、行動する。そんな人の一生の中で、音楽はいつも私たちに寄り添う。

なぜ人は音楽を愛し、音楽に愛されるのか。
人にとって「音楽」とは一体何なのだろうか。

まずは、音楽の歴史から考えていきたい。

音楽の起源には、「言語起源説」「労働起源説」「模倣起源説」など実に様々な説がある。過去に戻れない以上その答えはわからないままだが、私たちの祖先がこの世界に誕生した頃から、動物たちの鳴き声、風のそよぎや草木のざわめき、波のとどろきといった「音」の存在は認知されていたことだろう。現代でも騒音や生活音を含め、無響室にでも入らない限り私たちの周りは音で満たされている。

言語がまだない頃、人は意思疎通を図るためにジェスチャーを用いたり、何かを叩く・引っかく・擦ることで合図を出したり、または発声の抑揚や大きさと感情らしきものも表現することができていたのではないだろうか。判明していることは、現在発見されている最古の楽器は石器時代のもので、その頃にはすでに音楽が存在していたということだ。人ははじめ天災や外敵から身を守ってくれるものとして音楽を用い、その後は祝祭や儀式などにその用途を変えていったという。

やがて古代ギリシア時代、今日の西洋音楽の礎となる音律がピタゴラスによって発見されると、音楽は数学や天文学と並んで教養として学ばれ、また芸術として広く親しまれるようになった。また時に音楽は、民族主義や国家主義などのナショナリズム、社会主義、宗教といった思想や主義主張とも深く結びつき、人のアイデンティティの一端を担ってきたといっても過言ではない。

このように歴史的観点から見ると、いかに人と音楽が密接な関係にあるのかがわかる。そもそもこの世界に音の存在がなければ、人は言語を持たず、それによってコミュニケーションの方法も変わり、ここまで生物学的な進化や文明の発展を遂げることはできなかったかもしれない。逆に、この世界に音が存在してもそこに人がいなければ、今日の音楽は存在しなかったとも言える。音楽は、人が生み出したのだ。

それでは、なぜ音楽は生み出されたのだろうか。

先述したピタゴラスは、人が美しいと感じる響き（ハンマーの音が共鳴した快い協和音）の中に単純な整数の比が潜んでいるという事実に着かれ、熱心に研究をしたという。中国では三分損益方が考案されるなど、人は音の中から美しさを見出した。

私は「協和音が美しいと感じる」という部分に注目したい。ピタゴラスが生きたのは紀元前6世紀頃、今から約2500年も前の感覚と今の私たちの感覚は同じなのだ。

考えてみると、何百年前につくられたオペラは今観ても喜劇は楽しく、悲劇は悲しい。他にも、たとえば先人たちが「素敵だ」「悲惨だ」と感じた光景、あるいは「愛しい」「憎しい」と思う気持ちは、今もどうだろうか。つまり、感性や感情といった人を人たらしめる部分である「心」は、古来より変わっていないということだ。

人は何かに心動かされた時、誰しもがそれを誰かに伝えたいと思う。その時、人はこの宇宙の摂理ともいえる音から、人がもつ美的感覚や複雑な内面、つまり「心」を表現・浄化・享受・伝承するための手段として、音楽を生み出したのだ。

人の「心」が音楽を生み出した、とも言えるだろう。

ところで、「音楽は世界の共通言語」という言葉を耳にしたことは少なくない。確かに、私たちは楽譜を通じて生きた時代も言語も違う作曲家達と対話し、また初めて会った人と言語が通じなくても音楽を通じて会話することができる。しかしこれにはスポーツと同じようにある一定の決まり事を共通認識していることが前提の話であると思うが、この言葉の真意は他にあるに違いない。人種、性別、言語…人のいかなるものが異なっても音楽は人にみな平等だ、という意味なのではないだろうか。たとえ楽譜が読めなくても、楽器が演奏できなくても、歌詞の言葉の意味がわからなくても、音楽は人の「心」に響く。

なぜなら、音楽は人の「心」が生み出したからだ。

また時折、音楽は人が生み出したとは思えないそれ以上の何か大きな力を持っていると感じる時がある。音楽を演奏している時もただ聴いている時も、人智を超えた何か暖かく優しいものに包み込まれているような幸福感がある。音楽は遥かに人を凌駕する瞬間がある。

とはいえ、音楽は今日世界で起きている様々な問題を直接的に解決できる特効薬にはならない。命を脅かす事態が起きたときに人が簡単に切り捨てることができるのは、ライフラインではない文化芸術だ。近頃身をもって体験した。

しかし、私たちは決して文化芸術を、音楽を途絶えさせてはならない。音楽がなくなれば、私たちの「心」もきつとなくなるだろう。人にとって「音楽」は、はるか遠い昔から今へと人が「心」で繋いできた、人類の偉大な遺産だ。

私はこれまで生きてきた中で音楽を通じ、人の生き様や様々な考え方、たくさんの「心」に触れてきた。出会ったその全てが自分の中に生き、これからも生き続ける。そして次は自分の「心」が誰かの中に生きていく。音楽は人を呼び、音楽を通じて人がまた人を呼ぶ。

そうして音楽によって人の「心」は繋がっていく。この世界においてその役割を担っていけることに少しの誇りを持ちながら、音楽家として、また1人の人としてこれからも成長し、音楽と共に生きていきたい。



2020年3月23日 専門講義室にて



入試、卒業式、そして入学式

真声会理事・学内委員 山本 毅（24 期・打楽器）

この春、我々は新型コロナ禍という音楽学部始まって以来初めての体験をいたしました。当初の予想を超えて深刻化する事態の中、入試、卒業式、入学式と次々と対応を迫られました。

前期日程の美術学部入試を終えたところから、新型コロナ禍は急速に深刻化し、後期日程の音楽学部入試に向けて大学内で急遽対応策を協議しました。複数回の長時間にわたる会議を経て、第二次試験について今年度に限り音楽通論のみを実施し、ピアノや聴音、視唱の試験を中止することを決定しました。

かねてより本学の教育では専攻実技のみを偏重するのではなく、学科やソルフェージュ、楽典、ピアノも重視して来ましたので、二次試験を楽典のみとすることは本当に困難な苦渋の決定でした。しかし、受験生の、そして入試のために働いてくださる大学職員やアルバイトの皆さんの健康リスク軽減を最優先して三密を避けるためにやむを得ず下した決定です。本学は決してこれらの科目を軽視したのではありません。今年は残念ながら中止となりましたが、次年度からは当然復活します。真声会の会員の皆様の中にも受験希望者等を指導しておられる方がいらっしゃると思いますが、ソルフェージュや楽典、副科ピアノはいわば音楽家の基礎体力ともいえるものです。これらにしっかり取り組むことは将来に向けて必須であり同時に必ず益となることをぜひ若い世代にお伝えいたしたいと思います。

入試を終えて迎えた卒業式は、保護者等の列席をお断りして、卒業生と教職員のみにて執り行われました。三密を避けるため卒業生には講堂全体に散らばって着席してもらい、教員は後ろにて立ち見、ドアは全開しての挙行となりました。新型コロナ禍で社会的不安感が高まる中にあることの変則的な式でしたが、卒業生たちの将来に向けた希望と決意に満ちた表情から私も勇気をもらったよき時であったと思います。卒業式の様子や式辞については本学ホームページ（https://www.kcua.ac.jp/20200323_ceremony/）にてご覧いただけます。

そして入学式、ついに中止の決定となりました。学長からの新入学生に対する式辞はホームページに掲載となりました。（https://www.kcua.ac.jp/20200410_entrance_ceremony/）

また、新入学生に向けた歓迎のビデオメッセージも学長の提案によって収録され配信されています。（https://www.kcua.ac.jp/entrance_movie/）

本学の歴史の中で入学式の中止は過去に例がないのではないのでしょうか。我々教職員にとっても衝撃ですが、新入学生にとっては一生に一度の入学式。それが中止ですからその心はいかばかりかと思います。入学式だけでなく、授業開始も 5 月まで延期になりました。大学に入学しても授業がないのです。本当に驚きの年となりました。

2020 年度はこうして波乱のスタートとなりました。しかし、このような経験は学生たちにとっても大学にとっても長い目で見れば有益なものとなり得ると私は信じています。過去の疫病流行を人類はすべて乗り越えてきました。今回の新型コロナ禍も必ず克服することができると信じています。その時には新入学生のみならず大学も真声会の皆さまも音楽家として人として必ず成長していることなのでしょう。いにしえの神学者も語っています。「患難は忍耐を生み、忍耐は練達を生み、練達は希望を生む。そして、希望は失望に終わることはない」と。

音楽学部卒業生、音楽研究科修了生の皆さま、おめでとうございます。音楽学部新入生の皆さま、すなわち、真声会新会員の皆さま、おめでとうございます。心から歓迎します。音楽芸術の道の深奥を求めてともに歩んでまいりましょう。



京芸だより

古典＝クラシック

京都市立芸術大学副学長・学内委員 大嶋 義実(26期・フルート)

「古典」というと皆さんは何を思い浮かべますか。モーツァルトでしょうか、ベートーヴェンでしょうか。彼らが活躍したのは18世紀です。でも他の分野の古典はもっと古いようです。哲学者にとって古典は古代ギリシャのそれです(ソクラテス、プラトンの活躍は紀元前400年頃)。平安時代の源氏物語(11世紀初頭)を日本の古典と理解することに反対する人はいないでしょう。とすると、たかだか300年ほどの音楽を「クラシック＝古典」と呼びならわしている私たちの業界は、他ジャンルから見ればずいぶん奇異に思われているのかもしれませんが。

いろいろなところに書いているので目にされた方もいらっしゃるかもしれませんが、古典やクラシックという言葉は紀元前から存在しました。「古典」という語はすでに紀元前500年ごろの中国の書物にみられるそうです。一方クラシックという語を初めて使ったのは共和制ローマ時代のキケロという哲学者です。彼は、古代エジプト、アレキサンドリアのムーセイオン(ミュージアムの語源です)という施設に集められた書物のことを「第1級の選ばれし作品」という意味でclassicと呼びました。

こうしたことから、現代人が古典やクラシックと認識している時代にも、さらに遡るべき古典、クラシックが存在していたことがわかります。そしておそらく古代ギリシャや古代中国の人々が古典と呼ぶ世界にも、さらに遡るべき古典があったことは間違いないのではないのでしょうか。

人間はどの時代にあっても古典を求めずにはいらなかったようです。なぜそれほどまでに人は古典を求めるのでしょうか。

それは「その始原において人間は完成されていた」という信憑なしに私たちは社会を営むことができないからのようです。

ギリシア神話では、その昔、人間は神々と共に住み、調和に満ちた黄金の時代を暮らしていたといえます。それが徐々に墮落し、争いの絶えない鉄の時代＝現代を生きることになってしまいました。つまりかつてあった黄金の時代に帰るべく悪戦苦闘しているのが現代人というわけです。聖書のアダムとエヴァの物語にも共通するものがありますね。中国では礼と仁による非の打ちどころない政治が行われた周公旦の治世が孔子の目指す理想的な社会でした。

古典の世界を遡上し続けると、行きつく先は究極の完成された世界が現れてきます。ギリシア神話、聖書の物語、周の言い伝えがそのことを示しています。どうやら人間は「過去に帰らなければ未来を拓けない」というパラドクスを生きているようです。かつてあった(はずの)高みに帰ろうとする営みこそが人類の歩みなのかもしれません。革命＝revolutionという言葉ですら「再び(re)渦巻のように(volute)巻き込む」と、一旦過去に戻るイメージを内包しています。一度たりとも実現したことのない革新的な未来のヴィジョンを語るときさえ、人は振り返らずにはおれないのです。それがあらゆる時代、あらゆる分野に古典が必要とされてきた理由です。古典は秘められた人間の能力を最大限に引き出す装置として機能してきた、といえるでしょう。

バッハが北ドイツの伝統的なオルガンを聴きに400キロの距離を徒歩でリュベックに向かったのは知られた話です。そこにはオルガンの古典を継承するブクステフーデがいました。400キロは彼を古典へと導く道のりだったのです。私たちのたずさわる音楽は他分野から見ればまだまだ新しいジャンルなのかもしれません。でも、バッハの例を出すまでもなく、クラシック音楽はいつの時代にあっても古典を求める魂によって育まれてきた芸術といえましょう。古典こそが常に新しい世界を垣間見せてくれるからです。

今日も過去に問いかけ未来を聴こうではありませんか。

(本稿は京都音楽家クラブ会報第723号に寄稿した文章をリライトしました)

●人事異動のお知らせ

ご退任(2019年3月末)

教職課程 教育心理学 山村 麻予先生

ご着任(2018年4月1日)

教職課程 教育心理学 宇佐美 朋子先生

※新型ウィルス騒動で、予定されてる演奏会開催が不透明な状況です。今後の演奏会につきまして、正確な情報は学校のHP等で確認してください。(7月の定期演奏会は中止になりました)



支部報告

大阪支部 <http://senri-music.com/shinseikai-osaka/>「真声会大阪支部」でアクセス可。

新型コロナウイルスが猛威を振るっております。半年前にこの世界の混乱を誰が予想したでしょうか。

大阪支部では昨年の 12 月 8 日に、プロムナード・コンサートが、前号会報 69 号でお知らせのとおり、池田市石橋のギャラリー「アンダンテ」にて開催されました。ほんの 40 席のスペースに 52 名のご来場をいただき、16 期から 64 期の 8 名の出演者がバラエティに富んだ内容とクオリティの高い演奏を披露、温かい拍手を満身に受けて、盛会に終えることができました。

3 月半ばにはすでに外出、イベント自粛の要請が強まっておりましたが、何とか支部報 115 号を発行することができました。その後も収束の希望を持って、5 月 31 日(日)支部総会、また、8 月 21 日(金)「ブリリアント・コンサート 2020」(兵庫県立芸術文化センター小ホール)の準備を進めておりました。が、状況はますます悪化、長期化も予測される中、この先強行することは難しく双方とも断念せざる得なくなりました。

社会が、そして音楽界にとっても非常に厳しい状況下です。一日も早い終息を願いつつ、同窓会として何かできることはないのか、模索しながら対応していきたいと思っております。

副支部長 大富 栄里子 (28 期・ピアノ)

関東支部

いつもとは違う春を迎え、戸惑いと苛立ちの中にも平常心を失くしてはならないと自分に言い聞かせているこの頃ですが、いくつかご報告です。

第 24 回定期演奏会を令和元年 9 月 23 日にすみだトリフォニー小ホールで開催。参加は 8 組 16 名(うち 1 名は賛助出演)。来客数は 73 名でした。和元年度の演奏会後援は 7 件。今年度の第 25 回総会は令和 2 年 5 月 11 日に開催。また、第 25 回定期演奏会は 10 月 31 日にすみだトリフォニー小ホールにて開催の予定です。

新型コロナウイルス対策としての政府からのイベント等の自粛要請により、関東圏でも多数の演奏会が中止または延期に追い込まれています。それだけではなく、オーケストラ、合唱団の練習、もっと小さな音楽的な集まりも、個人レッスンに至るまで自粛や中止となり、個人的に音楽を生業とする私たちには試練の時期となっています。京芸も入試が簡素化されたとか! 4 月からの新年度開校は大丈夫なんですかね? とまれ、1 日も早い収束を願うのみですが、感染対策をきちんと施した上での音楽活動を少しずつでも広げる事を考えたいですね。

皆さまも、どうぞご無事にお過ごしください。お問い合わせなどございましたら、shinseikaikanto@gmail.com までよろしくお願いいたします。

支部長 宇野 徹哉(28 期・声楽)

京都支部

京都支部ではこれまでの活動を引き続きながら、会員の皆様に支部活動の周知・ご協力、催しへの参加を広げていくべく毎回の役員会で意見を交わしてきました。

去る 2 月 24 日(月・祝)には、ウィングス京都におきまして、お忙しい中、本山秀毅氏(28 期 声)にお越しいただき、これまでの「バッハの魅力」につづく「ヨーロッパ音楽の背景にあるもの」と題してお話を聞くことができました。

今、世界的に大流行となった新型コロナウイルスは、日常生活や経済活動に大きな影響を与え、この先終息の兆しの見えない状況の中、今年度、第 31 回目を迎える京都支部総会&懇親会を開催するべく準備を進めてきました。しかし、現在の状況下において総会をはじめとするその他の活動の中止・延期の判断を迫られ、役員会で議論を重ね今年度の活動をいったん取りやめることとしました。楽しみにしていた作曲家門田展弥氏(20 期 Ob)の「令和のクラシック」と題した講演も、9 月 22 日(火)に予定していましたが、第 37 回プロムナードコンサートも中止を決定し、コロナ禍の終息を待つ対応となっています。本部・各支部の皆様も感染防止に努められ、ご健康であられることお祈りいたします。

連絡先/宮崎友香子(38 期・ピアノ) TEL & FAX 0774-93-3957 PC y.miyazaki.ykk@gmail.com

支部長 寒川 正晴(30 期・ホルン)

滋賀支部

COVID-19が世界を席卷しているため、コンサートはもちろん、あらゆるイベントが中止・延期に追い込まれました。社会のあらゆる活動が制約を受けており、短期の収束は見込めない状態ですが、支部活動はフリーズしないで何とか持続させたいと思います。

支部総会は7月5日(日)13時よりヴェルツブルクハウス2Fにおいて実施します。例年は夕刻からの開催でしたが、茶話会の形式に変更します。

第32回支部演奏会「湖のしらべ」は11月21日(土)に開催予定をしています。いつもの会場、しがぎんホールでの最後の演奏会となります。しがぎんホールは貸館業務をすでに停止されておられますが、今までご厚意により使わせてもらっていました。来年以降の会場は運営費用とも相談しながら検討してまいります。

滋賀支部事務局 井出 悟 TEL & FAX 077-579-2171 大津市日吉台3-32-1

支部長 杉中 博(19期・トランペット)

中部支部

この春は新型コロナウイルスの影響で全てが例年とは違ってしまい、支部活動も影響を受けています。先回の真声会会報第69号でご案内致しました4月19日開催予定の支部主催演奏会「音に集う会 Vol.6」も演奏者と話し合った結果、6月15日(月)19時開演に変更させて頂きました。また5月17日(日)に予定していました2020年度第11回中部支部総会も緊急事態宣言にともない在宅での開催に変更しました。但し、流行りのオンライン会議ではなく各議案や委員改選等の議決を出席予定の会員様に郵送で行うという超アナログの手段です。このような異例の開催方法の為、それに関する支部会則の一部改正も急きょ議案に挙げています。8月発行の支部会報「真声会中部第21号」にてご報告致しますのでご覧下さい。未だ不安は払拭されておりませんので先の行事予定は適宜下記HPにてご確認をお願い致します。このような苦境にこそ思いを巡らせて様々な工夫をし、我慢をしながら、一日も早く音楽の底力を発揮できる日常を望みましょう。今年度の新会員(新卒生)は2名おられましたので支部活動のご案内、お誘いをしました。世界情勢が激変する気配を感じます。若い方の参加は心強く、皆様のご協力をいただきながら苦境を乗り越えて時代に沿った支部づくりをともに目指していきたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

連絡先 e-mail: ototsudo.con@gmail.com (中島) HP: <https://shinseikai-c.jimdo.com/>

支部長 中島 百合子(19期・作曲)

奈良支部

奈良支部では2月14日に第19回定期演奏会を愛をテーマに なら de クラシック～An die Liebe 愛によせて～と銘打ち開催いたしました。皆様のご協力も賜り、盛況に演奏会を行えたこと、お礼申し上げます。

その後は諸情勢により、支部総会までの活動を自粛とし、支部総会及び懇親会を6月6日に開催予定で現在動いております。今回は支部長選挙を行いその結果の承認をしていただく予定です。それからの予定も、諸情勢により、思案中でございます。

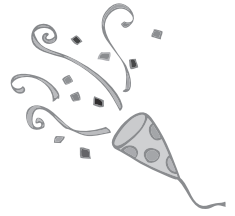
何かありましたら、真声会奈良支部事務局 E-mail shinseikai_nara_shibu_info@yahoo.co.jp までお気軽にお問い合わせください。どうぞ宜しくお願いいたします。

追伸：奈良支部は昨今の情勢に鑑み、書面での議事送付と返信によって支部総会に代えます。懇親会は無期限延期します

支部長 菊田 義典(42期・声楽)

真声会会員のコンクール等受賞者

コンクール等受賞者の掲載に関しては、正確を期するため、大学の教授会で報告されたものを転載しております。真声会事務局への直接の受賞のご連絡は受け付けておりませんので、必ず、音楽学部教務課にご報告くださいますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。



＜令和元年度後期 教授会報告分＞

◆第 23 回松方ホール音楽賞コンクール

ピアノ部門 音楽賞 第 1 位

小澤 美玲（修士課程器楽専攻（ピアノ）1 回生）

◆第 22 回長江杯国際音楽コンクール

大学の部 第 4 位

西村 友香（ピアノ専攻 2 回生）

◆第 21 回日本演奏家コンクール

木管楽器部門 大学生の部 第 3 位

岡 芽衣（管・打楽専攻（クラリネット）2 回生）

◆第 18 回宝塚ベガ学生ピアノコンクール

大学生部門 第 3 位

肥塚 菜々花（ピアノ専攻 1 回生）

◆第 6 回さかい九頭竜音楽コンクール

声楽部門 金賞及びさかい九頭竜音楽賞

松井 るみ（博士（後期）課程声楽領域 3 回生）

◆第 6 回さかい九頭竜音楽コンクール

声楽部門 金賞及びさかい九頭竜音楽賞

西田 みずほ（修士課程声楽専攻 1 回生）

◆第 20 回大阪国際音楽コンクール

アンサンブル部門 第 3 位

小椋 小野花（2018 年 3 月弦楽専攻卒業）

勝森 菜々（弦楽専攻 4 回生）

山田 千春（弦楽専攻 3 回生）

森 百々恵（弦楽専攻 3 回生）

◆第 20 回大阪国際音楽コンクール

管楽器部門 Age-U 入選

野田 彩伽寧（管・打楽専攻 2 回生）

◆第 20 回大阪国際音楽コンクール

弦楽器部門 Age-U 第 2 位

玉井 元（弦楽専攻 3 回生）

◆第 1 回杉並公会堂ベシユタイン室内楽コンクール

プロフェッショナル部門 第 3 位

木管アンサンブルはなり

下野 依子（2011 年 3 月管・打楽専攻卒業）

上品 綾香（2011 年 3 月管・打楽専攻卒業）

山本 梓（2011 年 3 月管・打楽専攻卒業）

市川 未来（2011 年 3 月ピアノ専攻卒業）

◆第 11 回東京国際声楽コンクール 西日本準本選

新進声楽家部門 金賞及び神戸新聞社賞

禪定 由理（2019 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

◆第 11 回東京国際声楽コンクール 本選

新進声楽家部門 第 4 位

禪定 由理（2019 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

◆第 30 回宝塚ベガ音楽コンクール本選

ピアノ部門 第 3 位

池田 董（修士課程器楽専攻（ピアノ）3 回生）

◆第 20 回大阪国際音楽コンクール ピアノ部門 Age-U

第 1 位

天勝 悠太（ピアノ専攻 1 回生）

◆第 4 回ダヌビアタレント国際音楽コンクール

ピアノ部門 E カテゴリー 第 2 位

中野 万里子（1979 年 3 月ピアノ専攻卒業）

◆第 30 回日本ドイツ歌曲コンクール

第 1 位（文部科学大臣賞, ドイツ大使館賞, 富士薬品賞）

浦方 郷成（2018 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

◆第 11 回東京国際声楽コンクール 西日本準本選

新進声楽家部門 第 3 位

玉置 彩音（修士課程声楽専攻 1 回生）

◆第 11 回東京国際声楽コンクール 本選

新進声楽家部門 第 5 位

玉置 彩音（修士課程声楽専攻 1 回生）

◆国際作曲コンクール＜空間における連続性の唯一の形態＞

独奏楽器部門 特別賞

岡本 伸介（博士（後期）課程作曲領域 3 回生）

◆国際作曲コンクール＜空間における連続性の唯一の形態＞

室内楽部門 ブルーノ・マデルナ賞（大賞・優勝）

石川 康平（作曲専攻 1 回生）

◆第 73 回全日本学生音楽コンクール 名古屋大会

チェロ部門 大学の部 第 1 位

館野 真梨子（弦楽専攻 4 回生）

◆第 5 回堺管打楽器コンクール

一般の部 木管部門 第 3 位

土佐 友理咲（管・打楽専攻 1 回生）

◆第 29 回日本クラシック音楽コンクール

ピアノ部門 大学女子の部 第 5 位

成毛 涼香（ピアノ専攻 3 回生）

◆第 13 回神戸新人音楽賞コンクール

管弦打楽器部門 優秀賞

上門 文香（2019 年 3 月弦楽専攻卒業）

◆第 33 回京都芸術祭音楽部門

京都新聞賞

上門 文香（2019 年 3 月弦楽専攻卒業）

◆第 33 回京都芸術祭

音楽部門 新人賞

東辻 純（2019 年 3 月ピアノ専攻卒業）

◆Concours Jeunes Talents 2019 (Paris)

第 1 位

小林 紗代子（修士課程器楽専攻（ピアノ）2 回生）

◆Fondation Banque Populaire

財団 奨学金

小林 紗代子（修士課程器楽専攻（ピアノ）2 回生）

◆第 29 回日本クラシック音楽コンクール

室内楽部門 第 2 位

小椋 小野花（2018 年 3 月弦楽専攻卒業）

勝森 菜々（弦楽専攻 4 回生）

山田 千春（弦楽専攻 3 回生）

森 百々恵（弦楽専攻 3 回生）

◆第 29 回日本クラシック音楽コンクール

ピアノ部門 大学女子の部 第 5 位

玉眞 あかり（ピアノ専攻 3 回生）

◆第 10 回クオリア音楽コンクール

ヴァイオリン部門 大学生の部 第 1 位

都呂須 七歩（弦楽専攻 1 回生）

◆第 38 回京都府文化賞

奨励賞

平野 一郎（2000 年 3 月修士課程作曲・指揮専攻修了）

◆第 10 回クオリア音楽コンクール

ピアノ部門 コンサーティスト部門 第 3 位

仲吉 愛里（ピアノ専攻 4 回生）

◆KOBÉ 国際音楽コンクール

金管楽器 C 部門 奨励賞

浅野 菜友香（管・打楽専攻 4 回生）

◆第 13 回バーテン音楽コンクール

自由曲コース ピアノ部門 全国大会 大学・院生 A の部 第 1 位

田端 佑衣（ピアノ専攻 2 回生）

◆KOBÉ 国際音楽コンクール

弦楽器 C 部門 最優秀賞及び兵庫県教育委員会賞

山森 温菜（弦楽専攻 4 回生）

◆令和 2 年度 五島記念文化賞

オペラ新人賞

中嶋 俊晴（2010 年 3 月音楽学部声楽専攻卒業）

◆第 29 回青山音楽賞 青山賞

豊嶋 泰嗣（弦楽専攻教授）

◆第 2 回ウィーン ダヌビア・タレント国際音楽コンクール

ピアノ部門 E カテゴリー 第 2 位入賞

中野 万里子（1979 年 3 月ピアノ専攻卒業）

後援演奏会情報

今回より、希望者のみ掲載しています。

また、新型コロナウイルスの影響で中止、延期になっているコンサートが沢山ありますが、4月末時点で、ご本人より連絡があった場合のみ、【中止】【延期】等を記しました。

♪真声会奈良支部 第19回定期演奏会

なら de クラシック～An die Liebe 愛によせて～

日時：2020年2月14日(金) 18:30

会場：秋篠音楽堂

出演：菊池敏子(17期 Vo)、尾田敬子(20期 Perc)、小川純子(21期 Pf)、谷川秀美(39期 Pf)、菊田義典(42期 Vo)、半田ひろ美(45期 Vc)、岩渕葵(55期 Vo)、桑原日菜子(55期 Pf)、今西彩菜(58期 Vn)、柴田咲(院28期 Vn)、福田奈央子(58期 Vc)、山岸千夏(58期 Fl)、小西果林(59期 Vn)、辻さゆり(64Cl)

♪アフター・アワーズ・セッション「冬の日の弦楽五重奏」

日時：2020年2月16日(日) 19:00

会場：モーツァルトサロン

出演：日比浩一(29期 Vn)、池村佳子(45期 Vc)、村田和幸(44期 Cb)、ゲオルギ・バブアゼ(教員 Vn)

♪音楽の森 Vol.3 ～東欧編～

日時：2020年3月1日(日) 14:00

会場：大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール

出演：藤原さおり(46期 Vo)

♪名古屋フィルハーモニー交響楽団在籍30年記念

「富久田治彦フルートリサイタル」

日時：2020年3月9日(月) 19:00 【延期 7月16日】

会場：ザ・コンサート・ホール(名古屋・伏見・電気文化会館)

出演：富久田治彦(31期 Fl)

♪第20回京都市立芸術大学オーボエ・ファゴット専攻生によるダブルリード大演奏会

日時：2020年3月11日(水) 18:30 【中止】

会場：京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演：渡邊潤也(31期 Ob)、中野陽一朗(37期 Fg)、中山美輝(61期 Perc)、高山郁子(教員 Ob)、光永武夫(元教員 Fg)、オーボエ・ファゴット専攻卒業生有志

♪An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ～

日時：2020年4月1日(水) 19:00

会場：豊中市立文化芸術センター 小ホール

出演者：信多仁子(32期 Pf)、栗木充代(34期 Vo)、中西金也(49期 Vo)、上木裕子(34期 Vo)

♪JOINT PIANO CONCERT 藤井夢音 & 古谷華梨

～The 250th Anniversary of Beethoven～

日時：2020年4月5日 14:00

会場：フェリーチェホール

出演：藤井夢音(64期 pf)、古谷華梨(64期 pf)

♪音に集う会 Vol.6 中部支部主催公演

日時：2020年4月19日(日) 14:00 【延期 6月15日】

会場：ドルチェ・アートホール Nagoya

出演：池村明子(48期 Vn)、野村友紀(50期 Vc)、山口由美(51期 Vn)、豊永歩(59期 Vn)

♪An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ～

日時：2020年4月28日(火) 19:00

会場：伊丹アイフォニックホール メインホール

出演者：信多仁子(32期 Pf)、栗木充代(34期 Vo)、中西金也(49期 Vo)、上木裕子(34期 Vo)

♪春のデュオ ～第7回デュオリサイタル～

日時：2020年4月29日(水) 14:00

会場：ミュージザ川崎シンフォニーホール 『市民交流室』

出演：鈴木梨津子(24期 Vn)

♪白水裕憲フルート リサイタル vol.8

日時：2020年5月3日(日) 14:00 【中止】

会場：高崎芸術劇場音楽ホール

出演：白水裕憲(33期 fl) 西岡千里(28期 fg)

♪名取裕子ピアノコンサートⅦ

日時：2020年5月9日(土) 14:00 【中止の可能性あり】

会場：和泉市久保惣記念美術館 Ei ホール

出演：名取裕子(34期 Pf)

♪ピッコロ室内楽サロン＜184＞Lilac Flute Duo Recital

(ライラックフルートデュオリサイタル)

日時：2020年5月9日(土) 18:00 【中止】

会場：兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター 小ホール

出演：大村優希恵(61期 Fl)、尾上理絵(61期 Pf)

♪白水裕憲フルート リサイタル vol.8 in 東京

日時：2020年5月10日(日) 19:00 【中止】

会場：豊洲シビックセンターホール

出演：白水裕憲(33期 fl) 西岡千里(28期 fg)

♪パンチャビエーナ セカンドコンサート

日時：2020年5月19日(火) 19:00 【延期 日時未定】

会場：豊中市立芸術文化センター 小ホール

出演：榊原契保(40期 Pf)、江戸聖一郎(49期 Fl)



♪ CELLO × PIANO recital アイエンキエン 西へ東へ 第二弾

「旋律を萌す」（公財）青山音楽財団助成公演

日時：2020 年 5 月 24 日（日）15:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：平林知子（35 期 Pf）

♪ An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ～

日時：2020 年 7 月 1 日（水）19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演者：信多仁子（32 期 Pf）、中西金也（49 期 Vo）、上木裕子（34 期 Vo）

♪ An Evening of Art Songs ～歌曲の夕べ～

日時：2020 年 5 月 26 日（火）19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演者：信多仁子（32 期 Pf）、藤美千代（43 期 Vo）、栗木充代（34 期 Vo）、上木裕子（34 期 Vo）

♪ 近代フランス音楽の風景「ワーグナー旋風」

日時：2020 年 7 月 5 日（日）17:30

会場：つくばノバホール別館 小ホール

出演：奥田千春（29 期 Pf）

♪ 中西金也バリトンリサイタル

日時：2020 年 5 月 28 日（木）14:00

場所：豊中市立文化芸術センター 小ホール

出演：中西金也（49 期 Vo）

♪ アフター・アワーズ・セッション セッションファイブ

日時：2020 年 7 月 13 日（月）19:00

会場：ムラマツリサイタルホール 新大阪

出演：松原央樹（29 期 Cl）

♪ アンサンブル・フロレスタン

ドイツ・ロマン派の潮流～響きあう心 深まりゆく刻～

日時：2020 年 5 月 30 日 14:00

会場：京都堀川音楽高等学校 音楽ホール

出演：高橋宏明（33 期 Vc）、小柴恵子（34 期 Vn）、土居知子（35 期 Pf）

♪ La Saison

～2 台のピアノによるアンサンブルコンサート Vol.2～

日時：2020 年 8 月 23 日（日）14:00

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール

出演：竹迫友梨（62 期 Pf）、松下桜子（62 期 Pf）

♪ Duo Recital 2020 ～偉大なヴァイオリニストたちの軌跡～

日時：2020 年 6 月 4 日（木）19:00

会場：豊中文化芸術センター 小ホール

出演：松尾紗里（55 期 Pf）

♪ Yattemiyo! vol.3 ～ヒロヤとニナとアンちゃんとは～

日時：2020 年 8 月 30 日（日）14:00

会場：遠藤剛熙美術館

出演：葛城裕也（64 期 Ob）、赤土仁菜（64 期 Fg）、高岸杏奈（64 期 Pf）

♪ 上木裕子ソプラノリサイタル

日時：2020 年 9 月 2 日（水）19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演者：上木裕子（34 期 Vo）、信多仁子（32 期 Pf）

♪ 栗木充代メゾ・ソプラノリサイタル

～またもりへ～ ミュージアムコンサート四季シリーズ〈秋〉

日時：2020 年 10 月 25 日（日）14:00

会場：兵庫県立美術館

出演：栗木充代（34 期 Vo）

♪ トリオ ドゥマン ピアノ三重奏コンサートシリーズ Vol.4

フランスからの風～ドビュッシーとラヴェル～

日時：2020 年 6 月 28 日（日）14:00

会場：ヒビキミュージックサロン リーヴズ

出演：小西果林（61 期 Vn）、西村まなみ（62 期 Vc）、中川千絵（61 期 Pf）

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。

元濱 綏子 先生（ピアノ）

7 期 井爪 禮子 様（声楽）

18 期 中村 雅美 様（ピアノ）

25 期 中川 裕一 様（声楽）

真声会活動報告

2019 年度 第 3 回理事会

日時 2019 年 11 月 5 日 (火)

会場 ザ・パレスサイドホテル

出席者

理事：登博美、樋上由紀、山本千壽、杉中博、佐藤敏子、山本毅
阿部千鶴、中村公俊、小松淳史

監査役：朴実

議案

1. 京都造形芸大の名称変更に係る署名活動に関する経緯及び今後について
2. 寄贈ピアノについて
3. 今後の運営及びビジョンについて
4. 京芸 140 周年 (2020 年) 及び学部 70 周年 (2025 年) について
5. その他

2019 年度 第 4 回理事会

日時 2020 年 1 月 21 日 (火)

会場 ザ・パレスサイドホテル

出席者

理事：登博美、樋上由紀、山本千壽、杉中博、中村公俊、小松淳史

議案

1. 真声会賞について
2. 支部支援金について
3. 学内委員との懇談会について
4. 会報 70 号について
5. 70 周年記念事業について、現有資産の有効利用について
6. その他

象の会、真声会合同会議

日時 2020 年 3 月 3 日 (火)

会場 京都経済センター

出席者 両会長・副会長、理事、幹事、大学事務局

議題

1. 京都造形芸術大学の名称変更に係る裁判の状況について
2. 4 月 1 日以降の大学と同窓会による広報活動について
3. 同窓会としての今後の取り組みについて
4. 意見交換

第 5 回真声会役員と学内委員との懇談会

日時 2020 年 3 月 4 日 (水)

会場 京都芸術大学

出席者

真声会：登博美、樋上由紀、山本千壽、杉中博、佐藤敏子、中村公俊
小松淳史、笹まり恵

学内委員：中村典子、酒井健治、山本毅、大嶋義実、村上哲、日紫喜恵美
上野洋子

議案

1. 象の会、真声会合同会議報告
2. 真声会への要望
3. 大学移転について
4. 大学運営の現状
5. その他

2019 年度 第 5 回理事会

日時 2020 年 3 月 17 日 (火)

出席者

理事：登博美、樋上由紀、山本千壽、杉中博、佐藤敏子、山本毅
阿部千鶴、中村公俊、小松淳史

監査役：笹まり恵

議題

1. 真声会賞の選考
2. 学内委員との懇談会について (報告)
3. 造形芸術大名称変更問題について (報告)
4. 事業計画、予算案について
5. 真声会 70 周年記念事業 (2025 年) について
6. その他



京芸移転先、元崇仁小学校の利用停止について

京都駅東側の京芸移転先にある、元崇仁小学校の音楽室と放送室を、練習などに使っていただきましたが、3 月末で京都市からの貸与期間が終了することとなりました。学校から、退去作業等も考慮し、最終使用期限を 2020 年 3 月 18 日とする旨、通知がありましたので、今後はお使いいただけません。

なお、真声会が設置していたピアノに関しては、旧音楽高校棟に一旦移されることになりましたので、ご報告致します。

真声会 2020 年度総会の中止について

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、理事会において中止の決定をさせていただくことになりました。つきましては、皆様にはご迷惑をお掛けすることとは存じますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、総会資料をご一読いただき、理事会への委任状か、議決権行使書にご記入のうえ、同封の返信用ハガキにて、6 月 1 日 (月) までに返信いただきますようお願い致します。ご不明な点がございましたらお問い合わせください。



京都市立芸術大学音楽学部同窓会
Kyoto City University of Arts Alumni Association

発行所

真声会 京都市立芸術大学音楽学部内

〒610-1197 京都市西京区大枝杏掛町 13 番地の 6

TEL: 080-6185-4494 FAX: 075-320-2520

e-mail: shinsei@kcua.ac.jp

HP: <http://www.shinseikai-kcua.net>

Facebook: <https://www.facebook.com/KCUA.AlumniAssociation.Shinseikai>

郵便振替口座 01070-4-16071 真声会